

2023年1月刊行

# ハプスブルク事典

川成 洋・菊池 良生・佐竹 謙一 編

A5判・824頁 定価24,200円(本体22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30681-9

## ハプスブルク家を軸に見る欧州の文化と歴史

中世以来600年、欧州史の中心にいたハプスブルク家。その歴史は神聖ローマ帝国、世界帝国スペイン、啓蒙の時代、多民族帝国、現代の国民国家の行方など多くのターニングポイントにかかわっている。あらゆる分野に影響を与えたその家を軸にすると、欧州の文化と歴史はどう見えるのか。ハプスブルク家を一体の流れとしてたどる中項目事典。

### 『ハプスブルク事典』 関連書籍



#### スペイン文化事典

川成 洋・坂東 省次 編  
セルバンテス文化センター東京 編集協力  
A5判・922頁  
定価 22,000円(本体20,000円+税10%)  
ISBN978-4-621-08300-0

スペイン文化を切り口として様々なテーマを「中項目主義」で解説する事典。ビジュアルで興味深く読み通せるユニークな構成。文化に関係するテーマはすべて網羅。



#### 中欧・東欧文化事典

中欧・東欧文化事典編集委員会 編  
羽場 久美子 編集代表  
A5判・866頁  
定価 24,200円(本体22,000円+税10%)  
ISBN978-4-621-30616-1

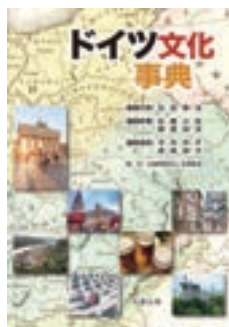
多様な文化と人々が混じり出会う「はざまの地域」である東欧／中欧／中東欧。この地域の文化や歴史の全体像を約340テーマで見開き完結構成でたどる中項目事典。



#### シリーズ コンパクトヒストリア スペイン通史

川成 洋 著  
四六判・276頁  
定価 2,750円(本体2,500円+税10%)  
ISBN978-4-621-30404-4

古代より様々な人々が行き交い、侵入し、定住したスペイン。私たちが矚目させる壮大なその歴史について、教科書以上に詳しく知るための一冊。



#### ドイツ文化事典

石田 勇治 編集代表  
佐藤 公紀・柳原 伸洋 編集幹事  
宮崎 麻子・木村 洋平 編集委員  
A5判・744頁  
定価 22,000円(本体20,000円+税10%)  
ISBN978-4-621-30564-5

ビールなどの食文化、サッカーなどのスポーツ文化、女性運動や環境運動などの政治文化、芸術や歴史上の人物など、多様なドイツ文化を紹介しその奥深さをわかりやすく解説。

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 営業部  
TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

丸善出版株式会社 行 FAX 03-3512-3270

注 文 書	ハプスブルク事典 定価24,200円(本体22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30681-9	冊	取 扱 店
	お名前	冊	
	ご住所 〒		
	TEL		

\*ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

tkp.23.A0A

# ハプスブルク事典

### 編者代表

川成 洋

(法政大学 名誉教授)

### 編 者

菊池 良生

(明治大学 名誉教授)

佐竹 謙一

(南山大学 名誉教授)

A5判・824頁 定価24,200円(本体22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30681-9



最新情報・詳細はこちら！  
丸善出版ホームページへ

丸善出版

◆電子書籍のお求めはこちらから







## 目次

### 第1章 神聖ローマ帝国

神聖ローマ帝国／世襲選挙王政／帝国教会政策／イタリア政策／大空位時代／選帝侯／ルドルフ・フォン・ハプスブルク／ボヘミア王オタカル2世／アルブレヒト1世／バーベンベルク家／モルガルテンの戦い・ゼンパッハの戦い／カール4世の金印勅書／ルドルフ4世／大特許状／フリードリヒ3世／マクシミリアン1世／【コラム】アルブレヒト賢侯

### 第2章 ブルゴーニュ公国

「ブルゴーニュ」とハプスブルク家／ブルゴーニュ公国／ブルゴーニュの宮廷／シャルル・ル・テメレル(突進公)／ブルゴーニュ戦争／マリー・ド・ブルゴーニュ／ネーデルラントの獲得／ドイツ歩兵傭兵部隊(ランツクネヒト)／マクシミリアン1世による近代郵便制度の誕生／金羊毛騎士団／イタリア戦争／【コラム】帝国郵便と国際会議

### 第3章 カトリック両王のレコンキスタの終結とスペイン統一

カトリック両王／カトリック両王が求めた「カトリック王国」／レコンキスタ(国土再征服戦争)／カトリック両王の宗教政策(対イスラム教徒)／カトリック両王の宗教政策(対ユダヤ教徒)／コムニダデスの叛乱／シスネロスと「コンプルテンセ版多言語対照聖書」／コンキスタドル(征服者)／エンコミエンダ／イベリア半島の言語事情／ネプリハ／ファン・デ・バルデス／16, 17世紀のスペイン文学／ロマンセ(ロマンセーロ)／カンシオン(カンシオネーロ)／騎士道小説／スペイン・ルネサンスの建築と彫刻／サラマンカ大聖堂／トレド大聖堂／ファン・デ・エレラーエレーラ様式／カタリーナ・デ・アラゴン／フアナ・ラ・ロカとフェリペ1世／【コラム①】コロンブス(クリストバル・コロン)／【コラム②】コバルビアス「カスティール語宝典」／【コラム③】カルロス1世とコボスの政治手腕

### 第4章 カール5世(カルロス1世)

カール5世／「典型的な中世の騎士」カール5世／フッガー家／宗教改革／農民戦争／パヴィアの戦い／ローマ略奪(サッコ・ディ・ローマ)／第1次ウィーン包囲／ヴォルムス帝国議会／シュバイアー帝国議会／プロテスタント諸侯／シュマルカルデン戦争／アウクスブルクの「甲冑に覆われた帝国議会」／アウクスブルクの宗教和議／領邦教会制／陽の沈むことなき大帝国／大航海時代／大航海時代と戦国日本／日本人侍の末裔／ラス・カサス／イエズス会／フランシスコ・ザビエル／インディアス新法／モ

ンテマヨール「ディアナの七つの書」／ロハス「ラ・セレスティーナ」／ガルシラソ・デ・ラ・ベガ—近代抒情詩の幕開け／ピカレスク文学の嚆矢, 作者不詳の「ラサリリーヨ・デ・トルメスの生涯」／フライ・ルイス・デ・レオン—詩人／カール5世の退位／【コラム】ラス・カサスと黒い伝説

### 第5章 フェリペ2世とフェルディナント1世

ハプスブルク家の系統分裂／ハプスブルク家, 両系統の提携／フェリペ2世／イエズス会とドミニコ会の論争／異端審問／マドリード遷都／マドリードの旧王宮(レアル・アルカサル)／エル・エスコリアル修道院／無敵艦隊／ネーデルラントの叛乱(オランダ独立戦争)／マウリッツの軍制改革／フェリペ2世のポルトガル王位継承／天正少年使節／慶長遣欧使節／サンタ・テレサ・デ・ヘスス「靈魂の城」【自叙伝】—神秘主義文学／サン・ファン・デ・ラ・クルス「カルメル山登攀」【暗夜】「靈の賛歌」—神秘主義文学／ロペ・デルエダ—職業演劇人／エラスムス思想とその影響／セルバンテス／セルバンテス「模範小説集」【幕間劇】／「ドン・キホーテ」と「鷹作ドン・キホーテ」／アカデミア／ゴンゴラ—クルテラニスモ／ゴンゴラ「ポリフェモとガラテアの物語」【孤独】／ロペ・デ・ベガ—大衆演劇を発展させた劇作家, 詩人, 小説家／ロペ・デ・ベガ「オルメドの騎士」【ファンテ・オペワーナ】／フェルディナント1世／ホーフブルク／居城都市ウィーン／マクシミリアン2世／ルドルフ2世／コメニウス／マティアス／ハプスブルクと塩／ボヘミア兄弟団／窓外放擲事件(第2次)／フェルディナント2世／ドイツ三十年戦争／グスタフ2世アドルフ／フェルディナント3世／エッゲンベルク城の大坂図屏風／再カトリック化／ウェストファリア条約／王太子ドン・カルロス／【コラム①】ドン・ファン・デ・アウストリア(1545-78)／【コラム②】ベルゲーテ「聖セバスティアス」／【コラム③】テルシオ

### 第6章 スペインの斜陽

スペインの斜陽／黄金世紀／フェリペ3世／レルマ公爵／フェリペ4世／オリバーレス伯公爵／カタルーニャの叛乱(刈り取り人戦争)／リスボンの武装蜂起／エル・グレコ／ルーベンス／ベラスケス／ベラスケス《鏡のヴィーナス》《ラス・メニーナス》／カルロス2世／黄金世紀の2人の音楽家, エンシーナとサリナス／フエンリャーナとカベソン—盲目の音楽家／教育事情—大学, 講座, コレヒオ・マヨール(学寮)／アルカラ大学／サラマンカ大学／16, 17世紀マドリードの中高等教育／シマンカス文書館／諷刺作家ケベード／ケベード「べてん師ドン・パブロスの生涯」—本格的なピカレスク小説／ティルソ・デ・モリーナ／「セ

ビーリャの色事師と石の招客」【不信心ゆえ地獄墮ち】／ルイス・デ・アラロン「疑わしい真実」／カルデロン—バロック演劇の巨匠／カルデロン「人生は夢」—世俗劇と聖体劇／ミラ・デ・アメスクアの宗教劇／グラシアン—警世の士への模索と奇知主義／グラシアン「神託のお告げの手引き」【エル・クリティコン】／常設劇場／宮廷劇場／演劇と観客／17世紀におけるスペイン文学のフランス文学への影響／スペイン・ハプスブルク王朝の宮廷美術／フランドル, イタリア絵画のスペインへの影響／フランシスコ・デ・スルバラン《聖ヒエロニムスの誘惑》《聖ブルーノと食卓の奇蹟》／ムリーリョ《聖アントニウスと幼児キリスト》／ムリーリョ《無原罪の御宿り》《蚤をとる少年》／リベラ《聖ピリポの殉教》《エビ足の少年》／バルデス・レアルと二大ヴァニタス画／ファン・ルイス・ピーベス／クラウディオ・コエリョ／サンチェス・コターン—スペイン静物画の創始者／パチェコ「絵画芸術」／ブエン・レティエロ宮／アルハンブラ宮殿のカール5世宮殿／セビーリャのアルチーボ・ヘネラル・デ・インディアス／マドリードのプラサ・マヨール／マルティネス・モンタニェス—《慈悲深いキリスト》／カーノ—《無原罪の御宿り》／ハプスブルク王朝の食—王様たちは何を食べていたか?／都市景観(町並み)／ハプスブルク時代の通貨／ハプスブルク時代の政治体制／貴族生活／職業(医者, 商人, 職人, 農民)／女性たちの日常生活(立ち居振る舞い, 衣装, 化粧など)／結婚・離婚／結婚外の恋愛(不貞, 愛人関係)／名誉感情／「血の純潔規約」／占い／迷信／十分の一税／農業経済／各種兄弟団(貧民の救済, 病人の扶助)／売春／旅行・旅籠／交通手段／二大祝祭(聖週間, キリスト聖体節)／闘牛(国民的娯楽)／遊び, 賭け事／テルトゥリア／治安・犯罪／病気・伝染病と「コロンブスの交換」／スペイン継承戦争／カルデロン「密かな恥辱には密かな復讐を」【名誉の医師】「不名誉の画家」／【コラム】アレマン「グスマン・デ・アルファラーチェの生涯」

### 第7章 バロックと啓蒙

ハプスブルクの18世紀／レーオポルト1世／近世のハプスブルクとハンガリー／トランシルヴァニア／第2次ウィーン包囲／大トルコ戦争／カルロヴィッツ条約／バロックの時代／ヨーゼフ1世／カール6世／オーストリア継承戦争／マリア・テレジア／政治遺言／フランツ1世／シェーンブルン宮殿／ハウクヴィッツ／啓蒙の時代／カウニッツ／七年戦争／マリー・アントワネット／ヨーゼフ2世／ガリツィア／ウィーン楽派／レーオポルト2世／フランス革命／フランツ1世(2世)／【コラム】ハプスブルクと音楽と日本

### 第8章 ハプスブルクの近代

複合国家としてのハプスブルク／オーストリア帝国の成立と神聖ローマ帝国の終焉／ナポレオン戦争／大司教領ザルツブルクの世俗化／ライン連盟／ウィーン会議／ウィーン体制／三月前期／ビーダーマイアー／ハプスブルク帝国の鉄道と汽船／《皇帝讃歌》と《ドイツ人の歌》／ハンガリーのナショナリズム／リストとハンガリー音楽／多民族の統一国家の模索／帝国摂政ヨハン大公／ヨハン・シュトラウス／リゾルジメント／メキシコ皇帝マクシミリアン1世／アメリカへの移民／プロイセン=オーストリア戦争(普墺戦争)／アウスグライヒ—帝国の再編／ナゴドバの中のクロアチア／ハプスブルク支配下のスロヴェニアと日本／マサリクとオーストリア=ハンガリー／皇妃エリーザベト／ハンガリー王国／ハンガリー王国の自治／ハンガリー王国建国千年祭／ジャーナリズム／ユダヤ人／ロマ(ジプシー)／翻訳文化／ウィーン市大改造／リングシュトラセ／ウィーン万国博覧会／ハプスブルクの世紀末文化—ウィーン・プラハ・ダペシュト／ハプスブルク家の食卓／ウィーンの食文化／世紀末建築／世紀転換期ウィーンの文化運動／世紀末絵画／世紀転換期の音楽／ウィーンの音楽堂／ハプスブルクとチェコ音楽／スメタナ／オペレッタ／世紀末文学／ホフマンスタール／ハプスブルクの《ぼらの騎士》／ツヴァイク／カフカ「変身」／オーストリア学派経済学／フロイト／シュタイナー教育の世界的影響／ウイトゲンシュタイン(弟)／ウイトゲンシュタイン(兄)／ボヘミア内国博覧会／皇太子ルドルフ／フランツ・フェルディナント／カール・ルエーガーと世紀末ウィーン／ボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合／トリエステ／東アジアの常駐艦／バルカンの戦争／クーデンホーフ光子／ハプスブルクと映画／オーストリア植民地主義／オーストリア科学と遠征／サラエヴォ事件／セルビア王国／ヨーロッパ平和運動の母, ベルタ・フォン・ズットナー／ハプスブルクと第一次世界大戦／サンジェルマン条約, トリアノン条約／巡洋艦「カイゼリン・エリーザベト」と第一次世界大戦—日本におけるオーストリア=ハンガリー兵捕虜／【コラム①】カフェ文化／【コラム②】ウィーンの大観覧車／【コラム③】日本のブルックナー受容／【コラム④】伊藤博文のハプスブルク／【コラム⑤】ウィーン楽友協会ホール

### 第9章 帝国の後で

ポスト・ハプスブルク・ダイバーシティ／帝国の清算／カカーニエン／ウィーン・ミュージカル／ウィーン・ハプスブルクの文化遺産／ポスト・ハプスブルクのファシズム／大ドイツ主義からの分離／ハプスブルクとEU(欧州連合)／オットー・ハプスブルク／【コラム①】最後の皇妃ツィタ／【コラム②】カプツィーナ納骨堂／【コラム③】ボスニア・ムスリムのその後

